

1年生学年だよ!

メリハリ つながり チャレンジ

令和6(2024)年1月19日 第57号
吹田市立第二中学校第一学年

道徳「父の言葉」

テレビでの活躍やベストセラーである「窓際のトットちゃん」、ユニセフ親善大使としての活動もされる黒柳徹子さん。彼女が小学生になる少し前、結核性股関節炎で入院することがあった。その時に偶然顔を合わせた同じ病気の女の子がいた。関わることもなく、「同じ病気の子」と徹子さんの記憶には残っていた。

その後、徹子さんは退院。そんな時道を歩いていると、あの「同じ病気の子」と出会う。退院した徹子さんとは対照的に彼女は赤い松葉杖をつき、目が合っても、徹子さんの何も無い足を見て黙ってすれ違うのだった。それから徹子さんはその子を見るたびに隠れるようになった。松葉杖をついていない自分を見せたくなかったのだ。

あるとき、父と歩いているときにまたその女の子を見かけることがあった。徹子さんはまた隠れるのだが、父は「そんなにかわいそうと思うんなら、隠れないで、行ってお話してあげなさい」と言った。6歳の徹子さんにはそういうわけてもどうしても勇気が出なかった。勇気が出たころには戦争が悪化して、その子の姿を見ることはなくなった。大人になった今、あの父の言葉こそ自分の行動の出発点ではなかったか、と思う徹子さんであった。

自分が「私」の立場だったら…

隠れる ←————→ 話に行く

今回みんなが深く考えたのは、自分ならどういう行動をするか。一体どちらが相手のことを考えた行動だったのだろう?

赤い松葉づえの女の子は、もし黒柳徹子さんが話しかけてきたら、どんな思いになったのだろうか? **気を使われない方がうれしいから声をかけてほしい**、という意見がありました。一方で、**相手は治っているのに自分は足が治っていないから話しかけられたくない**、という意見もありました。

例えば何かを「**やってあげる、助けてあげる**」ことは**どんな時でも思いやりだと言えるのだろうか?**

3学期総合学習では「福祉」についてを学びます。今回考え、悩んだことをその取り組みへ生かしてほしいと思います。

だから、もし自分がこの立場だったら、こうしたら自分は思うかな。と相手目線で考えて行動する。

どこからか、いいのか、その基準が必ずかいて、いろんな事を考えられるじやないか。

他者を思いやることを考えるようになったら、すごくあつくて、どこからどこまでか、親せきなのか、よくかんがえられた。

自分ほんいの思いやりで、良いことをしたとかんちがいい、しないようにしたいと思った。

カウントダウンカレンダー

1日1日日々は過ぎて行き、中学校1年生の登校日はあと40日ほどとなりました。今のクラス、今の先生方と過ごせる時間も限りあるものとなっています。4月には新たな出会いもありますが、避けられない別れも訪れることでしょう。2年生としていいスタートを切るためにも、今を大切に限りある日をカレンダーと共に数えながら歩いて行ってほしいと思います。



来週の予定

日付	行事	持ち物や連絡
1/22(月)	通常時間割(50分×5)	時程C(3年生学年末テスト)
1/23(火)	通常時間割(50分×6)	時程C(3年生学年末テスト)
1/24(水)	通常時間割(50分×6)	
1/25(木)	通常時間割(50分×6)	放課後 一斉委員会
1/26(金)	通常時間割(50分×6)	